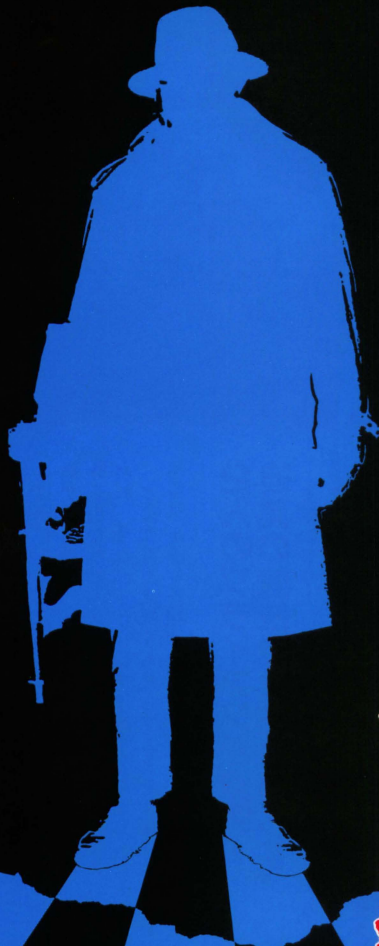


男は超一流のSFXマンだった……

《スペシャル・イフェクツ》



ドティ・フェイド/ジャック・ウイナー プロダクション
ロバート・マンテル フィルム
"FX MURDER BY ILLUSION"
ブライアン・フラウン/ブライアン・テネヒー
ダイヤモンド・ベノーラ/クリフ・デ・ヤング
音楽ビル・コンティ/美術メル・ボーン
撮影ミロスラフ・オンドリセック/特殊効果ジョン・ステイアーズ
製作総指揮マイケル・ベイサー
脚本ロバート・T・メギノン/グレゴリー・フリーマン
製作ドティ・フェイド&ジャック・ウイナー
監督ロバート・マンテル
(カラー作品)

 DOLBY STEREO
IN SELECTED THEATRES

引き裂かれたトリック

SFX界の天才が仕掛けた

《殺し》が恐るべき現実となった

F/Xとは、S/f/xと同じく、特殊効果の略である。ここ数年のアメリカ映画において、かつての大スターをもしぐ脚光を浴びるようになってきた特殊効果……そのF/Xをテーマにした映画がつかいやってきた！

特殊効果の世界ではトップとうたわれろり・タイラーは、人間を恐るべき怪物に変えたり宇宙に飛び発せたり、はたまた額に風穴あけたりはお手のものの魔術師。そんなロリーがある日信じられないようなオファーを受けた。司法省管轄下のある機関からで、暗殺を偽装せよというのだ。今度ばかりは俳優もキラクラも撒り直してもない。待ち構えている危険はほんものなのだ……。これは必ずしも脚本家の想像力がこしらえあげた設定ではない。この映画で特殊効果を担当し当然ながらアドバイザーもつとめたジョン・ステアーズ（スターウォーズ-R2D2の生みの親）は、これまでに3度ばかり同じようなアプローチを受けたと告白しているのだ。

男に残された唯一の武器はSFXのテクニクのみだった。

この物語は、毎日毎日数多くの台本を検討しなければならぬプロデューサーのドディ・フェイド（炎のランナー）やジャック・ウィナー（私のように美しい娘）の目にも、実に新鮮で心ときめく冒険アクションに映った。脚本を書いたのは、インディペンデント映画作家のロバート・T・メギソンと、俳優でありミュージシャンのグレゴリー・フリーマンのコビである。メギソンは脚本の狙いについて、次のように語っている。

「ぼくらは、技術一本で生きている人間を描きたかった。そんな人間が、実人生あるいは現実の暴力に直面した時どうなるのか。結局彼は、自分の人生を救うために、身につけた専門技術を駆使することで決着をつけることになる。」

新鮮なサスペンスに挑戦！

俊英ロバート・マルデン監督。

監督に起用されたロバート・マルデンは、83年の劇場映画監督デビュー作「独立記念日」で高い評価を受けたのだが、サスペンス/スリラーは映画を見始めた頃からのお気に入りのジャンルであったし、いつか映画の映画を撮りたいと思っていたので、よるこんでこの仕事を引き受けた。



引き裂かれたトリック

オリオン映画作品 An ORION PICTURES Release

「現実のバイオレンス対映画のバイオレンスというテーマに魅了された。両者がどう絡まり合いどう離れていくかだ。ロリーのロフトを訪ねた刑事は、映画のためにバイオレンスを創造して生計を立てている男の存在を知って仰天する。彼にとっては、そのバイオレンスが生きることに密接に関わっているからだ。ロリー側にしても驚きは同じこと。ほんもののバイオレンスに触れた時、意識が目ざめる。「F/X」の複雑さと今日性に、大いに興味を引かれたんだ。ほんものであれ映画であれテレビであれ、今やバイオレンスは我々の日常なんだよ。」とにかく真実味をもたらすことを主眼に、新しいサスペンスドラマを狙ったという。

2人のブライアンが激突！ 迫真の演技で火花を散らす。

主役のロリーには、「ブレイカー・モラント」などで注目されたオーストラリアの俳優ブライアン・ブラウンが抜擢されている。若い頃のマックイーンの雲間気を持っており、演技力も確かな上スター性もあると、プロデューサーのフェイドは激賞する。対する刑事レオ・マッカーシーには、「コクーン」「シルバード」と、このころ絶好調のブライアン・デネヒー、恋人エレンにはすぐれた舞台女優で「コットン・クラブ」「オール・ザット・ジャズ」などにも出演しているダイアン・ペノーラ、ターゲッたたる暗黒街の大物には、ブロードウェイのスターで「ブリーク・オブ・シティ」で渋いところを見せたジェリー・オバース、他に「アメリカ万才」のクリフ・デ・ヤング、「スーパーガール」のマーサ・ゲーマン、「ブラミング・キッド」のジョー・グリファシ、ブロードウェイの舞台やテレビで活躍しているメイソン・アダムスらが出演。

近代的なニューヨークに オール・ロケーション敢行!!

ニューヨークでロケーション撮影されているが、マンデルは撮影監督ミロスラフ・オンドリセック（アマデウス）「シルクウッド」の力を借り、エンバク・ステート・ビルやクワイズラー・ビルに象徴されるこれまでの古く重苦しい色合いの街ではなく、クロームとガラスにきらめくしなやかな現代的な都会を撮りたかったという。製作総指揮は、ウッディ・アレンの作品を数多く手がけるなどこの街でのロケーション撮影の広範な経験を買われたマイケル・ペイサー。「F/X」のタイトルにふさわしく、工夫を凝らした特殊効果がふんだんに楽しめる。

11月15日(土)ロードショー

特別鑑賞券 一般 ¥1200 / 学生 ¥1100 発売中

渋谷東急文化会館 1F

パンテオン (407)7219

新宿歌舞伎町

ミラノ座 (202)1189

池袋東口・サンシャイン60階通り

シネマサンシャイン1 (982)6107

上映時間(3館共通)

日・祝 10:00 平日 12:00 2:15 4:30 6:45